

# WCRP

Religions for Peace

会報 2026年 **冬**号  
Vol.549



## Contents

新春挨拶 .....	2
杉谷義純会長 戸松義晴理事長	
特集：アジェンダ 2030	
人間の尊厳を考える円卓会議 2025 .....	3
第15回 日韓青年交流会開催 .....	4
核兵器廃絶に向けたシンポジウムの開催 ミャンマー支援 .....	5
女性部会 祈りと対話が紡いだ3日間－沖繩 宗教別学習会 第3期 平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー .....	6
平和研究所 研究会報告 .....	7
計報 根本信博先生 目で見る WCRP 読者の声 .....	8



公式サイト

# 新春挨拶



WCRP 日本委員会会長  
天台宗妙法院門跡門主

杉谷 義純

新年明けましておめでとうございます。昨年、日本委員会は国際委員会と連携して平和構築に向けていくつかの意義深い事業を実施することができました。特にウクライナ、パレスチナ、ミャンマー等の紛争地域における和解を宗教者が主導する東京平和円卓会議は、昨年で3回目を実施し、より具体的な行動計画を策定、その実践を誓い合いました。暴力の即時停止に向け、世界の宗教指導者との連携をさらに強化し、日本委員会として行動計画を確実に進めたいと思います。本年は核不拡散条約（NPT）再検討会議と第3回核兵器禁止条約締約国会議が予定され核兵器廃絶に向け重要な局面を迎えます。核をめぐる国際情勢が緊迫している現在、唯一の戦争被爆国として日本委員会は、絶対悪である核兵器の存在が人道的にも道義的にも許されないことを力説してまいりたいと存じます。さらに本年はアジア宗教者平和会議（ACRP）の第10回大会が ACRP 発祥の地であるシンガポールで開かれます。事務局を担う日本委員会としてはアジアの多様性を生かしながら、アジアの宗教者とともに対話、協調、連帯、共生のメッセージを広く国際社会に発信していきたいと思っています。

現在、過剰な利己心や不寛容から生み出される憎悪によって排他・独善主義の潮流が暴力と繋がり、世界に分断と不安定な状況が生まれつつあり、このような時こそ宗教者は、誰よりも率先して対話を通じた信頼の醸成のために行動することが肝要です。本年も共に平和への歩みを前進させていきましょう。



WCRP 日本委員会理事長  
浄土宗総合研究所副所長・浄土宗心光院住職

戸松 義晴

新年おめでとうございます。昨年7月に開催された第3回東京平和円卓会議では、紛争地域における中・長期的な平和構築に向けた行動（「東京和平プロセス」）を盛り込んだ声明文が採択されました。本年は、「東京和平プロセス」を着実に実行し、パレスチナとイスラエルの宗教指導者による中東和平会合、ウクライナとロシアの青年交流の実施等に着手します。これらを通じて、世界の紛争に対する諸宗教者による具体的な行動に取り組んでまいります。また、「不殺生戒」や「汝、殺すなかれ」に象徴される宗教者の理念に基づき、軍事力を基盤とする国際政治のあり方を問い直し、とりわけ弱い立場に置かれた方々の声に丁寧に耳を傾けながら、いのちを脅かささまざまな現実の課題に対して積極的に応答してまいります。

WCRP 日本委員会の活動は皆さまからのご寄附で成り立っております。活動をより一層持続可能なものとするため、昨年からは遺贈寄付の受入も始めました。暗澹たる世界の中で、平和と対話のメッセージを届けるべく、本年は情報発信にさらに力を入れて参ります。日本委員会役員の方々と、賛助会員の皆さま、関連団体の皆さまから昨年度いただいたご支援に改めて感謝申し上げますとともに、本年もさらなるご協力をお願いいたします。



## 「人間の尊厳を考える円卓会議2025」 参議院議員会館にて開催

11月19日、人身売買禁止タスクフォースは「人間の尊厳を考える円卓会議2025」を参議院議員会館特別会議室にて開催した。会場およびオンラインを通じて、政治家、メディア、労働界、宗教界、賛助会員、市民など約100名が参加し、国会議員や厚生労働省、出入国在留管理庁職員も出席した。

自見はなこ氏（自民党・参議院議員）は技能実習制度に対する懸念の声を踏まえ、「育成就労制度」等、政策対応の必要性を述べた上で「この制度は排外主義が目的ではない」と訴えた。森山浩之氏（立憲民主党・衆議院議員）は日本社会全体で価値観を共有し、法改正に臨んでいきたいと強調した。

札幌地域労組の鈴木一氏は、ベトナム人技能実習生を取り巻く劣悪な労働・生活環境について紹介。労働組合として団結権を行使し、交渉によって解決を図った経験を共有した。

8bitnews 代表理事の堀潤氏は、大きな主語を使うことで事実が見えにくくなることを指摘し、小さな主語で語るため現場での経験を伝えた。

タスクフォースのメンバーで、ベリス・メルセス宣教修道女会の弘田しずえ氏が諸宗教ネットワークを活用した人身売買禁止に向けた啓発活動

や被害者との対話の実践を報告した。

ディスカッションでは堀氏の進行の下、宗教者の立場から発題があった。日本カトリック難民移住移動者委員会委員の山岸素子氏は、人身売買の背景には、安全ではない移住や貧困、紛争といった要因があるとし、被害者のためのシェルター提供をしてきた経験を紹介。日越ともいき支援会代表理事の吉水慈豊氏は、技能実習生の支援活動の報告に加え、「実際にネットワークができたとしても、現場で働く人たちが、そのネットワークを理解し、支援を届けるための知識や体力、資金が不足しているのが問題」と厳しい現状を訴えた。マスジド大塚事務局長のクレイシ・ハールーン氏は技能実習生や難民状態、土葬を巡る課題といった多様な課題を抱える人々がモスクに来ることに触れながら、包括的な問題解決のために諸宗教で連帯することの意義を語った。会議では「人身売買禁止に向けたアピール2025」が満場一致で採択された。参加者からは「人身売買の情報は日常の中でニュースを見ていただけではなかなか触れられなかったため、恥ずかしながらショックと衝撃を受けた」「宗教と政治の話をする場がもっと必要」といった感想が寄せられた。

## 第15回 日韓青年交流会開催

12月18～19日、金峯山修験本宗総本山金峯山寺を会場に、WCRP日本委員会青年部会と韓国宗教人平和会議（KCRP）の共催により、「第15回日韓青年交流会」を開催した。日韓青年交流会は1990年に第1回を実施して以来、約2年ごとに日本と韓国で交互に開催されてきた。本年は日本・韓国両国から16団体28名の宗教青年が参加し、「ともに歩む東アジアの未来 ～日韓宗教青年の次なる一步～」をテーマに実施された。

18日のアイスブレイクは、青年部会幹事の村上泰教師（弘元寺住職）が進行を務め、翻訳アプリを活用しながら交流を行った。対話においては「相手の言葉を待つ時間も大切に」という姿勢が共有された。開講式では、戸松義晴理事長が「人間は時に嘘をついてしまったり、至らないこともある。そのような自分も相手もありのままを受け止めていく」と述べ、交流を後押しした。KCRP 青年委員長のイジェソン氏は、「過去に日韓青年交流会に参加した青年は現在宗教界のリーダーとして活躍している」、「互いに知り合い、分かち合う時間にしてもらいたい」と期待を示した。青年部会幹事長の太西英玄師（北法相宗音羽山清水寺成就院住職）は、日韓青年

交流会は「諸先輩方の並々ならぬ努力の上にある」ことに触れ、「人間が孤独を感じることに対極にあることはオープンにできる関係性があること」とし、交流会で心を開きあえる関係性になれるよう期待を述べた。その後、蔵王堂参拝および修験道体験を通じ、日本独自の宗教観への理解を深めた。

19日は勤行体験に続き、五條良知管長導師の下、お護摩修法が厳修された。「語らい」の時間では、文世鈴氏（フォコラーレ運動）の進行のもと、両国の歴史にも触れながら率直な対話が行われた。閉講式では副幹事長の加藤大志氏（服部天神宮禰宜）が、「長い時間軸で物事を捉えることができる宗教者として、日韓の親睦を深めていく営みを継続していることに意義ある」とし、参加者に感謝の意を述べた。

参加者からは「初めて来日したが、今後日本を思い出すときは吉野や金峯山寺が真っ先に浮かぶと確信している」、「韓国で民族宗教の信仰を持っているが、金峯山寺の自然に対する畏敬の念と共通項を見つけることができ参加できたことが有難かった」、「日韓青年交流会が開始してから35年が経つが初めてここまで深い分かち合いができた」といった感想が寄せられた。





## WCRP日本委員会と日本パグウォッシュ会議の 核兵器廃絶に向けたシンポジウムの開催



11月8日、WCRP日本委員会は核兵器廃絶や平和構築を科学者の立場で推進する日本パグウォッシュ会議と共にシンポジウム「今あえて軍備なき世界の創造を問う：非戦・信仰・科学」を東京大学で開催した。テーマにある「軍備なき世界の創造」とは、WCRP創設の機縁となった1970年第1回WCRP世界大会（京都）で基調講演を務めたノーベル物理学賞の湯川秀樹博士の講演テーマ

であった。

今回のシンポジウムで基調講演を務めたのが、パグウォッシュ会議のフセイン・アル・シャハリスターニー会長（元イラク石油大臣）である。同会長は、今後は科学者と宗教指導者は連携し、若者への平和教育の推進、核兵器廃絶の道徳的義務化、そして法に基づく国際秩序の守護に注力すべきと訴えた。その後、宗教者による応答が行われ、日本委員会ストップ！核依存タスクフォースの水谷周委員（日本宗教信仰復興会議代表理事）は、イスラームの「サラム（平安）」は単なる非戦ではなく、生命を尊重し心の安寧を願う能動的な概念であると紹介。戦後80年を機に、この「平安」の祈願を非戦の原点として再確認し、平和への呼び掛けを再強化すべきと語った。



### ミャンマー支援

一般人に銃口が向けられた軍事クーデターから2月1日で5年。今もミャンマー全土で、少数民族や民主派の武装勢力が激しい抵抗を続けている。そんな中、2025年3月28日にはミャンマー中部を震源とする地震が発生、ASEANによると死者およそ3,800人、負傷者5,100人、85万7000人が被災した。

WCRP日本委員会は、災害対応タスクフォース（黒住宗道責任者）での議論を経て4月上旬に初動の緊急支援、5月に第1期（5団体）、10月には第2期支援（2団体）を決定した。

第1期の支援先のひとつである INEB (International Network of Engaged Buddhists) は、合計712世帯に対して食料・家庭用医薬品・衛生用品等を配布した。地震と進行中の紛争によ

る複合的な困難が続くミンゴン・キャンプにおいて水処理施設を建設。1日最大8,000ℓの安全な飲料水を提供することで、キャンプ住民の健康と必須資源へのアクセス改善に大きく貢献している。



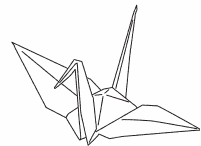
ミャンマーでは2024年2月から、18歳以上の男女を対象に徴兵制（人民兵役法）を施行。国を出る若者が後を絶たず、徴兵対象でない10代半ばの子どもさえ徴兵されているという。ミャンマー情勢への世界の関心が薄れるなか、軍事政権下で繰り返される子どもたちへの人権侵害も目を向けなければならない深刻な問題である。

## 女性部会 祈りと対話が紡いだ3日間 — 沖縄 宗教別学習会

2025年10月23～25日、WCRP日本委員会女性部会は、沖縄で宗教別学習会を開催した。唯一の地上戦を経験した沖縄の歴史に触れ、平和祈念公園やひめゆりの塔で献花と黙祷を行い、戦争で犠牲となったすべての命に追悼の祈りを捧げた。2日目の対話プログラムでは、高里鈴代氏（基地・軍隊を許さない行動する女たちの会共同代表）、島しづ子氏（日本キリスト教団うふざと伝道所牧師）、戦中を生き抜いた大嶺直子さんらを迎え、女性の人権、基地問題、沖縄が抱え続ける痛み、そして戦争体験を次世代へ伝える意義について深く語り合った。約80名が参加し、多様な立場から「いのちの尊厳」について考



える貴重な時間となった。最終日は琉球王国最高の聖地・斎場御嶽を訪れ、祈りの文化と精神性に触れた。3日間の学びを通して、参加者は沖縄に息づく祈りと平和への願いを受けとめ、今後の活動へとつなげる決意を新たにした。



和解の教育タスクフォース主催



### 第3期 平和と和解のための ファシリテーター 養成セミナー

第5回開催

12月5日～7日、熊本県水俣市で、『つながる／つなげる』をテーマに、「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」（第3期第5回目）が開催された。

前半のオプションツアーでは、5日午後に水俣病歴史考証館を訪問し、水俣病の歴史と文化を学んだ。6日午前にはフィールドワークを行い、水俣病と関連のあるさまざまな場所を見学した。水俣市立水俣病資料館では、語り部の吉永理巳子氏の講話を聞いた。

午後からは熊本大学の石原明子准教授をコーディネーターに迎え、第5回セミナーの全体プログラムをスタートした。石原准教授の導入セッションのあと、水俣

の「もやい直し」の実践をリードしてきた吉本哲郎氏の講話を聞いた。その後、5つグループに分かれて現地の活動団体や関係者を訪ね交流を図った。7日は、「チッソは私であった」の著者である、緒方正人氏の講演ならびに受講生との対話を行った。参加者からは「水俣は公害だけではなく様々な問題があり、世界の縮図だと感じた。自分にできる役割を探したい」などの感想が述べられた。



緒方正人氏を囲んで



水俣病慰霊の碑

## 平和研究所 研究会報告

### 2025年度 第5回研究会

日 程：2025年10月21日

発表者：松井ケティ所員（清泉女子大学キリスト教文化研究所客員教授）

テーマ

### ガルトゥングの理論と 東京平和円卓会議での実践



和解と対話のプロセスについて、ノルウェー出身の平和学者ヨハン・ガルトゥングの理論と、それに基づいて自身が経験した東京平和円卓会議などでの実践を交えて述べる。ガルトゥングは、直接的暴力、文化的暴力、構造的暴力の3つの暴力により分断・対立した問題には、病気に例えて診断、予測、治療方法と深く分析する必要があると説くとともに、和解につながる治療に進むための事前の対話の重要性を指摘する。それは、最初は対立している者同士の参加者に①明るい未来、②暗い未来、③明るい過去、④暗い過去の順番で問うことにより、「希望」という共通点にたどり着くことができる対話だという。第2回東京平和円卓会議の最終日、分科会のモデレーターを務めた私は、この理論を応用し参加者に、①30年後の自国のビジョン、②ネガティブな未来像、③明るい過去、④暗い過去を順番に共有するように促した。すると参加者たちは、現在起きていることと自分たちが描く明るい未来との間の隔たりを埋めるための方策の議論を始め、あるラビ（ユダヤ教聖職者）は「パレスチナ人とイスラエル人の若者と共にプロジェクトを計画し取り組む」と述べた。第3回平和円卓会議に参加したこのラビは、「参加者が集まらず実現しなかったが再び計画する。私たちは信念に従って行動する」と報告した。同様に多くの宗教指導者から平和を求めた具体的な行動と信頼を築くことの重要性などが強調された。今後の東京平和円卓会議に期待する。



### 2025年度 第6回研究会

日 程：2025年11月25日

発表者：齋藤忠夫所員（東北大学名誉教授）

テーマ

### 「国連 SDGs の環境プラスチック問題の 解決にむけて」



2030年を目標に世界で取り組まれている国際目標のSDGsから、環境におけるプラスチック問題を取り上げる。プラスチックは、安価で大量につくることができ、毒性がなく燃やしても有害ガスを出さないなど使い勝手のよさから、容器や衣類の繊維などの原料として生活の隅々に行きわたり、今では生活になくてはならない物質となっている。年間約4億t生産され、そのうちの半分2億tほどが森林や河川に廃棄されているという。捨てられたプラスチックの多くは海洋に流出し分解され長期間とどまることになる。5mm～1μm（マイクロメートル：1mmの1,000分の1）のものをマイクロプラスチック（MP）、それ以下をマイクロ・ナノプラスチック（MNP）と呼ぶ。近年、人体組織からMPが検出されたとの報告が多く寄せられている。海外からは、マウスに経口投与されたMNP粒子が2時間後に、有害物質を遮断する生物学的関門の血液脳関門をすり抜け脳に到達したとの実験報告や認知症患者の脳では、そうでない人の脳と比べてMNP濃度が6倍高い、といった報告も出されている。この問題は環境問題のみならず健康問題でもあるとの認識に立ち、循環型社会をめざした一人ひとりの行動が求められている。



ACRP スペシャルアドバイザーで、立正佼成会参務の根本信博先生が、病氣療養中のところ、2025年11月2日にご逝去されました。(享年69歳)  
根本先生は、アジア宗教者平和会議 (ACRP) の前事務総長で、WCRP 日本委員会理事、WCRP 国際委員会副事務総長をお務めいただき、国際的な宗教協力・対話活動に多大なご貢献をされました。ご生前に賜りましたご厚誼に感謝の誠を捧げるとともに、ご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。



## 目で見る

## WCRP

EVENT  
01



### 戸松理事長が

### 聖エジディオ共同体国際会議でスピーチ

10月末、戸松義晴理事長は聖エジディオ共同体主催の国際会議に出席。分科会で、東京平和円卓会議の声明に触れ「祈りを具体的行動へつなげるのが宗教者の責務」と力説した。閉会式は教皇を迎えたコロッセオで熱狂のうちに幕を閉じた。詳細 <https://ourl.jp/CmBsJ>

EVENT  
02



### COP30で国際委員会がサイドイベント

11月11日、Religions for Peace 国際委員会は気候変動枠組条約締約国会議 (COP30) 公式サイドイベントをブラジル・ベレンで開催。先住民と青年の声に焦点を当て、祖先から受け継がれてきた知恵と科学を結びつけながら、世代を超えた協働によって気候正義を実現することの重要性を確認した。

## 支援のお願い

### 賛助会員となって 活動をお支え下さい

WCRP 日本委員会の活動は寄附によって支えられています。寄附を通じて私たちの活動をサポートしていただければ幸いです。(寄附金には税務上の優遇措置があります)



#### ■ 賛助会員の特典 ■

- ・会報誌 (年4回発行) が届きます。
- ・主催の学習会/ツアーのご案内が届きます。
- ・活動にボランティア等として優先的に参加することができます。
- ・賛助会員の会費は寄附金控除の対象となります。

#### ■ 会費 ■

個人会員：1口 10,000円/年  
団体会員：1口 100,000円/年

### 「遺贈寄付」の 受入を始めました

(公財) 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会は、クラウドファンディング等で知られるREADYFOR (レディフォー) 株式会社と連携し、遺贈によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談を承っております。皆さまの大切な想いを、宗教・世代・地域を越えた平和と共生の活動へ確実に活かしてまいります。

#### ■ 遺贈寄付とは ■

ご自身の遺産や相続財産の一部を、社会のために役立てる寄付の方法です。ご家族の想いを大切にしながら、未来の平和づくりに長期的なインパクトをもたらすことができます。

#### ■ 遺贈寄付に関するお問い合わせ ■

READYFOR (レディフォー) 遺贈寄付サポート窓口  
<お電話での相談・資料請求>  
**0120-948-313 (通話料無料)**  
受付時間: 平日10:00~17:00 (年末年始を除く)

### 読者の声



#### 山梨県匿名さま

何が正しく、何がフェイクなのか? 溢れるほどの情報が飛び交う社会。私は、真実を知るために WCRP 日本委員会が発信する情報を心の拠り所にしていきます。地域に根を張ろうとする宗教者の活動には、WCRP は“羅針盤”のような存在です。半世紀を超えてなお、進化する取り組みに、いつも励まされています。混迷する世界だからこそ、これからも世界の人々に“進むべき道”を示す存在であり続けてください。

## WCRP 2026年 冬号

令和8年1月20日発行 (季刊発行) 第549号

発行人: 戸松義晴

発行所: 公益財団法人 世界宗教者平和会議日本委員会

〒166-8531 東京都杉並区和田2-7-1 (普門メディアセンター内)

TEL: (03) 3384-2337 FAX: (03) 3383-7993

HP: [www.wcrp.or.jp](http://www.wcrp.or.jp) E-mail: [rpfj-info@wcrp.or.jp](mailto:rpfj-info@wcrp.or.jp)

